

令和 2 年 1 月 1 7 日

国立公文書館

館長 加藤 丈夫 殿

〒 3 5 2 - 0 0 0 6

埼玉県新座市新座

2 - 1 8 - 1 5 - 5 0 4

杉原誠四郎

昨年 1 2 月 1 0 日付内容証明郵便にてお送りした 1 2 月 8 日付文書「インターネット特別展「公文書に見る日米交渉－開戦への経緯」における疑義と要請」につき、1 月 1 5 日付にてご回答いただきましたこと、深く御礼申し上げます。

さりながら、上記 1 2 月 8 日付文書で申し上げた疑義は晴れず、そしてまた要請した事項につきましてはご回答をいただいております。

ご回答によれば、「参考文献」における「研究書、一般書籍」については、「担当職員が実際に参照した文献のみを掲載した」とのことですが、本件に関する当該書については、平成 1 7 年のインターネット展示開始の時点で、下記のような経緯で、その研究成果は

世間の注目するところとなっており、その存在は顕著に明らかになっていました。

平成13年、後に防衛大学校校長に就任される五百旗頭真氏が中心となって、日本もアメリカの外交電報を解読しており、情報戦においては、部分的に日本は互角に戦っていたという事実を初めて発見したと、記者会見をして発表されたことがあります。しかしこの史実は、平成9年刊行の本件当該書で紹介しており、本書では、日本側がアメリカの外交電報を相当程度解読していたという事実だけではなく、実はアメリカ政府は日本側がアメリカの外交電報を解読しているというその事実を知っていたという事実をも紹介し、そして、アメリカ政府がそのことを知っていたという事実が日米交渉の中でどのように活用されていったと推定できるかまで述べております。

五百旗頭氏が平成13年、記者会見で日本側もアメリカの外交電報をある程度解読していたという史実を発表されたとき、私（杉原）は各新聞社からいろいろと取材を受け、私はこの史実は初めて知られたものではないとコメントし、そのコメントは地方紙も含め全国の新聞で報じられ、この本もそこで紹介されました。

よって、本件の当該書は日米交渉に関わる重大な史実を明らかにした研究書として、全国的に広く知られたこととなります。

本インターネット展の担当者がそのことを知らないはずはなく、そしてまた、たとえばこのことを知らなかったとしても、文献紹介として掲載する図書を選定する職務を担当する者として、国会図書館に収蔵している研究書を検索し、本書の存在を明らかにすることは当然しなければならないことであり、よって本件当該書の「参考文献」不掲載には意図的なものがあったと見なさざるをえません。

たとえ過失による不掲載の場合であっても、日米交渉に関わるこれほどの重要な研究書が不掲載であることは到底認められることではありません。

よって、昨年12月8日付文書にありますように、「参考文献」作成を担当した職員の氏名をお知らせいただき、当該書の不掲載が不適切であることにつき、謝罪及びこの「参考文献」の中に当該書を追加掲載していただくことを改めて要請します。

なお、一般的に言って、我が国の歴史学界にしばしば見られる研究者の不公正な研究仕様につき、これを是正する意味も込めて、

本文書及び1月15日付貴回答文書は公表
させていただくことを申し添えます。

また、本件に関わり、「研究者」としての
五百旗頭真氏に問う」なる一文を月刊雑誌
『正論』平成21年6月号に載せていること
を申し添えておきます。

以上

令和2年1月17日

受取人

東京都千代田区北の丸公園3-2

国立公文書館館長 加藤丈夫

差出人

埼玉県新座市新座2-18-15-504

杉原誠四郎